

授業公開や検定

講師の質を保証

塾激変



保護者の信頼を得るために塾は必死だ。

関西から東京に進出した中学受験塾、希学園の場合。黒本部のある日の教室の最後列には、見学希望の母親が座っていた。

小学3年の長男に「すごい授業が楽しい」と聞いて、ほぼ毎週授業を見学しているという母親は、「ほかの塾は教

■学習塾講師検定の内容

- 【3級】対象：未経験者を想定
筆記試験：基本的マナーと高校入試レベルの担当科目理解度
- 【2級】対象：実務経験1年以上が目安
筆記試験：3級と同じ
実技試験：模擬授業の映像を審査員が評価
- 【1級】対象：2級合格者。実務経験3年以上。5年程度が目安
実技試験：模擬授業の映像を審査員が評価

室に入れてもらえない。自信を持って教えてくれているのがわかる」と話す。同校では、年3回、生徒が

講師の満足度を5段階で示し、評価が低い講師は教室を変更される。

前田卓郎理事長は「親は高い授業料を払うのだから当然。関西では、塾の中身を公開しないと生徒に来てもらえない」と話す。

業界全体で「講師の質」の客観的な評価基準をつくる動きもある。

約600社が加盟する全国学習塾協会が2008年から「学習塾講師検定」を始め

た。塾講師の能力を客観的に評価する制度だ。

制度導入は「学習塾の自身を見える形にしたい」という、業界側の要望がきっかけだった。講師の実力がわかれば保護者は安心して子を通わせることができる。一方で、

転職が多い塾業界で働く若い講師には、仕事の動機付けになる、と塾協会は見込む。

「必要ない」などと制度に反対する塾も多く、過去2年の受験者は2級で計360

人。普及には時間がかかりそうだが、「検定制度を研修に組み込みたい」と相談に来る

大手塾もあるという。神奈川県の高校受験を中心とした進学塾、中高等学校（横浜市港南区）で、数学や理科を教える坪野洋季さん（24）は今、講師検定の2級を受験している。

「子どもの成長を支える仕事をしたくて」なった講師だが、ある日の休み時間、中学

生の男子に「先生、講師の資格持ってるの」と聞かれた。ないとすると、「じゃあ、誰でもなれるんだ」。何も言い返せなかった。「自分が講師である証拠って、何も無いな」。心に引かかった。

2級の筆記試験に合格し、自分の指導ぶりを録画したDVDを送った。現在は、その実技審査の結果待ちだ。

「合格すれば、履歴書にも書ける。自分の中で武器となるものを確立したい。新たな目標が見つかった。（井上秀樹）